

そらうがく

(No. 69)

R3. 12. 13 発行

現職研修委員会
総合的な学習部編集



総合的な学習の時間といれから

総合的な学習部長 竹平 真仁

「総合的な学習の時間」は二〇〇二年四月に施行された学習指導要領により創設されました。その主旨は「各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、国際理解、情報、環境、福祉・健康などを横断的・総合的な学習などを実施する」と示されました。当時の率直な感想を思い起こすと、何をやるかは各学校に全て任せられ、実際にどうやっていこうかと大きな不安を覚えたものです。あれから約二十年、各学校で優れた実践も生まれ、「総合的な学習の時間」は日本の教師の優秀さを示す指標ではないかと感じています。

この二十一年間で世界は大きく変わりました。想像を超える大きな災害の発生や、ICTの急速な進展など、二十年前には想像できなかった現状があります。そして、令和元年度の終わりから、世界は新型コロナウイルスに振り回され続けています。今後はどうなっていくのでしょうか。

今年度の初め、一冊の本を手に入りました。「未来

のドリル コロナが見せた日本の弱点」(河合雅司著・講談社)という本です。少子高齢化や人口減少など、著者は「社会の老化」と言っていますが、わが国が抱える根本的な問題が、コロナ禍によって加速されたと述べていました。子供たちが大人になったときに社会はどのようなになっているのか、現状を認識し、想像力を働かせながら、子供たちに資質・能力を身に付けさせていく必要があります。

先日、本校で行われた四年生の総合的な学習の時間の授業では、SDGsをテーマとしていました。世界の経済問題を取り上げ、富の偏りを実感させるための手立てとして、大きな粘土の塊が登場しました。教室を世界に見立て、教師は子供たちを豊かさによる6つのグループに分けました。もともと豊かなグループにその粘土のほとんどが与えられると、驚きの声が上がりました。最後のグループにはほんのりかけらの粘土しか残りませんでした。すぐに解決できる問題ではありませんが、子供たちは現状を認識したのではないのでしょうか。このように子供たちが未来を生きるときに役立つ「総合的な学習の時間」を、これからも展開していきたいものです。

本年度の研究の方針

生活・総合指導員 六ツ美北中学校 廣瀬 浩司

昨年度は、コロナ禍の影響で、ほとんどの研修が中止となりました。今年度は、教育研究大会以外、ほとんどの研修を実施することができました。

七月二十八日に、授業力・教師力アップセミナーが行われました。研修Ⅰでは、中島翼先生(六ツ美西部小)が、iPadを効果的に活用し、個別最適化された学びを目指した実践の報告がありました。子供の意識に寄り添いながら、丁寧に学びを進めていく活動内容に参加者は刺激を受けました。研修Ⅱでは、今、話題となっている「令和の日本型学校教育」について、久野弘幸先生(中京大学教授)の講話を聞きました。研修Ⅲでは、八釧明美先生(知多市立旭東小学校教頭)を講師に招き、総合的な学習の時間に身に付けたい探究的な学びについて、すぐろくの形で教師が学ぶ機会を設けました。充実した学びの多い研修となりました。

七月三十日には、三教研総合的な学習部会の夏季研修会が行われました。岡崎地区の代表として、岩田光憲先生(矢作南小)が実践発表をされました。コロナ禍でありながら、学区や市を巻き込んだダイナミックな実践は、参加者の注目を集めました。自主的に研修に参加することで、自分の実践を見つめ直す機会になります。今後も、さまざまな研究に積極的に参加しましょう。

県教研の報告

十月十六日に第七十一回教育研究愛知県集会が開催されました。岡崎の代表として、丸中美来先生（常磐小）と岩田光憲先生（矢作南小）が参加し、積極的に討論を行いました。

助言者の愛知淑徳大学・加藤智先生からは、非認知的スキルについての話があり、「自分ならできる」「自分は地域や社会から必要とされている」と実感できる経験が必要だとご助言をいただきました。

常磐小学校 丸中 美来

「主体的・協働的に追究し、主体的に考え、行動する子どもの育成」をテーマに、台湾の学校と世界の課題の解決をめざして、自分にできることを考え、想いを伝える実践について発表しました。特に、世界の課題を自分事としてとらえる工夫や、思考ツールとICTの活用の有効性について述べました。

討論の場では、総合的な学習を持続可能な学びにするための話し合いを行いました。子どもが学びを止めないよう疑問から課題を見つけること、実践したことに對して教師同士で評価し合うことが大切なのではないかなど、活発な意見交流されました。

矢作南小学校 岩田 光憲

今回発表した研究主題は、「探究的な学習に主体的・協働的に取り組む子ども」です。子どもたちは自ら課題設定をし、解決に取り組む、新たな課題を

見つける探究的な学習に取り組まれました。その過程で主体的・協働的に活動する子どもの姿を中心に提案しました。

地域との交流を持続可能な取り組みにしていこうとの難しさについて議論しました。地域の方と交流するタイミングやゲストティーチャーとどう関わり、どう思いを共有していくかなどについて考えることができました。

学び舎の 総合耳寄り情報

常磐中学校の一年生は、「私たちの常磐」と題して、よりよい学区の在り方について追究をしています。市の都市計画課の方に話を聞き、街づくりについて学びました。その後、各学級で常磐のこれからの「衣食住」「学校」「催し」について考えています。

（常磐中学校 原田 康司先生）



四年生は、市の防災課の方をお迎えし、地震の基礎知識や非常用持ち出し袋の中身の使い方、避難所での過ごし方について学びました。大きな地震が発生すると、救護が来なかつたり、何日も電気や水道が止まつたりすることを知り、自分の身は自分で守ることが大切だということをもつ子がたくさんいました。



（城南小学校 上原 美鈴先生）

四年生が「見つめ直そうわたしのくらし〜ホテルのくらし〜」をテーマに学習しています。十月にアイシンの方に来ていただきました。世界にはきれいな水を飲むことができない人がいることを知りました。自然環境を守るために、「プラスチック製品をなるべく買わない」「油はいい布に吸い込ませて燃えるゴミに捨てる」など、自分ができることを考えました。

（美合小学校 高橋 純一先生）



昨年度、四年生は、本校にあるピオトープ「ピオ竜谷」を題材にした授業に取り組みました。子供たちは、ピオができた当時、小学生だった方への聞き取りから絶滅危惧種「カワバタモロコ」を保護するために作られたことを知りました。その後、ピオ竜谷の現状について調べると、外来種により、「カワバタモロコ」が生息できないことが分かりました。このことが子供たちの「ピオ清掃」につながり、同時に、学区の自然を保護することの大切さに気付くことができました。（竜谷小学校 前田 康幸先生）



四年生は、「巨大地震から身を守る」をテーマに学習をしています。岡崎市役所防災課の方を招いて、非常用トイレの使い方や避難所内で使用するテントの配置体験をしました。避難所で使用する物は、非常時に誰もが簡単に使うことができるように、工夫されていることが分かりました。（愛宕小学校 檀浦 克子先生）



（愛宕小学校 檀浦 克子先生）